

平成29年度自己評価シート(年度末評価)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原 健次	全・定・通	Ⓢ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
1 学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。							
①中高連携を推進している。	大崎上島中学校卒業生の入学率(対卒業生数)	58%	60%	48%	C	昨年度並みの志願者数であったが、目標値を達成できなかったため。	全校
②地域学習「大崎上島学」を実施し、地域に誇りを持ち、地域に貢献する生徒を育成している。	生徒アンケート「「大崎上島学」を学んで、地域に誇りを持つことができた。」の肯定的評価の割合	87%	80%	84%	B	前年度並みの実績値であったため。	教務部 総合的な学習の時間担当者
③教育活動等について積極的に情報発信している。	HP 更新回数	82回	60回	88回	A	目標値、実績値を大きく更新したため。	教務部

【評価結果の分析】

①中高連携の推進

・6月下旬から7月上旬にかけて、高校教員による中3生への進路相談を実施した。中学校と高校との違い、今学んでいる中学校の学習の大切さ、高校卒業後の進路等をアドバイスした。生徒アンケート「進路相談はあなたにとって有意義でしたか？」の項目では全員が肯定的回答であった。

・高校の文化祭では、中学生に来校を促すイベントを実施し60名以上の参加があった。中学校の文化祭では本校と太鼓部が参加した。迫力ある演奏を披露し、中学生や来校された地域の方々に本校の良さをアピールすることができた。

②地域学習「大崎上島学」の実施

・「大崎上島学」を開始して2年目となった。生徒アンケートでは中間評価よりも肯定的評価の割合は増加している。また「まったくあてはまらない」と回答した生徒の割合は数%であり、大崎上島への誇りを醸成できていると考える。

・11月21日(火)・22日(水)の2日間、1年生は福祉体験学習を実施した。島内の福祉施設で実習を行うことで、大崎上島町の福祉の現状を理解し、将来自分に何ができるかを考えさせた。また、2年生は職業人として必要な資質や高校生として取り組むべきことを学ぶため、職業人インタビューを実施した。

・今年度新しく内容づくりに取り組んだ2年生の「大崎上島学Ⅱ」では、漁業、教育、農業、造船、福祉の現場を訪問し、大崎上島における課題を発見し、その解決方法を考察する学習活動を実施した。

・3学年リサーチⅢの「大崎上島学」を選択したグループは、島の農家に協力して、廃棄される農作物を活用した「みかんスムージー」の商品開発を行った。11月12日(日)に沖浦港前広場で行われたオキウラマルシェでは「みかんスムージー」を販売し好評を博した。

・本校の生徒と近隣の高等専門学校の学生と共同で、地元「学び」という観点で仕事や従事者を紹介する「島の仕事図鑑第5弾—学びの島編—」を作成した。冊子は3月に完成予定である。また「大崎上島町における学びについて」というテーマで意見発表を行う大崎上島未来会議「学びの島編」を2月に開催した。

・キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた団体等を表彰する「第11回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞した。本校が学校魅力化プロジェクトの一環として行っている地域を教材とした課題発見・解決型のキャリア教育が、今後日本で加速することが予想される少子高齢化という課題の解決に当たり優れたモデルとなるとして評価された。

③情報発信

・本校HPの更新回数は、昨年度よりも減少した。行事担当者に作成を依頼しつつ、本校の取組をより一層発信する必要がある。

・学校情報誌(海星だより)は計画通り発行することができた。

・島内の中学校に対して、5月に開催された進路説明会では、生徒全員及びその保護者に学校案内を配付した。8月には保護者を対象とした学校説明会を実施した。10月には進路説明会で本校のプレゼンテーションを行った。

・周辺5中学校及び県外2中学校を訪問し、中学3年生及び教職員に学校案内を配付した。また、民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の9中学校を修学旅行前に訪問し、3年生及び教職員に本校の学校案内を配付した。

- ・近隣の高等専門学校と連携し、関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに学校案内を配付した。
- ・東京で計8回大阪で計2回の説明会を実施した。回数を重ねるごとに本校への興味を持つ保護者からの問い合わせが増加し、入学者選抜への出願につながった。
- ・8月10日、11日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し、5組10名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。
- ・4月より生徒が主体的に学校魅力化を進めるチームとして「みりょくゆうびん局」を創設した。今年度は、東京で生徒募集のための学校説明、学校見学ツアーの運営、広島大学における講義・演習の実施などの活動を行った。

【今後の改善方策】

①中高連携の推進

- ・高校教員による中3生への進路相談は、来年度も継続する。また3年生担任と面談結果の共有ができるように調整する。
- ・高等学校が開催する文化祭・体育祭等へ、より多くの中学生が気軽に参加できるようにイベントを工夫する。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・来年度は地域活動を授業に取り入れる。多くの行事を通して、生徒が様々な役割を担うことにより、大崎上島に誇りが持てるよう指導する。

③情報発信

- ・今年度HP作成用のフォーマットを作成したが、機能していない。HP作成担当者がよりきめ細やかに教職員に依頼することが必要である。
- ・本校「みりょくゆうびん局」の生徒にHPの原稿を考えさせることも検討している。
- ・東京都等県外での説明会を来年度も継続的に実施する。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
2 特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。							
①生徒指導の三機能を生かした授業づくりを推進することにより、生徒の自己肯定感が高まるとともに、生徒は基礎的な知識及び技能を習得している。	授業評価アンケート「授業では、「本時の目標」が板書されている。」の肯定的評価の割合	92%	100%	93%	B	前年度並みの実績値であったため。	教務部各教科
	授業評価アンケート「授業では、「振り返り」の時間がある。」の肯定的評価の割合	92%	90%	96%	A	目標値を達成し、前年度より4ポイント高いため。	教務部各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	78%	75%	78%	A	目標値を達成し、前年度並みの実績値であったため。	教務部各教科
	広島県高等学校学力調査において学校平均通過率が1年次から2年次にかけて維持・向上した教科数	1教科	2教科	2教科	B	外国語は平均通過率を維持した。国語は、今年度より集計方法が変更されていたが、関係した項目をみるとほぼ維持できていたため。	教務部各教科
②能動的な学びを推進することにより、生徒の主体的に学ぶ態度が育成されている。	学習時間調査1日平均1時間以上の生徒の割合(%)	27%	30%	33%	B	目標値を達成できたため。	教務部各教科
	授業評価アンケート「授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面がある。」の肯定的評価の割合	75%	90%	81%	B	目標値には到達していないが、前年度より6ポイント高く、目標値に近づいたため。	教務部各教科
	授業評価アンケート「授業を受けて、自分からすすんで勉強しようという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合	72%	75%	74%	B	目標値には到達していないが、前年度より2ポイント高く、目標値に近づいたため。	教務部各教科
	ICEモデルを活用した学習指導案の作成	3回	3回	2回	B	計画どおり実施した。	教務部各教科

【評価結果の分析】

- ・授業評価アンケート「授業では、「本時の目標」が板書されている。」及び「振り返り」の時間がある。」の肯定的評価の割合については、授業者がきちんと取り組めていることによる結果である。
- ・授業評価アンケート「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合については、目標値を3ポイント上回ったが、前年度と同値である。見通しを持たせる指導を行い、自己肯定感を高める指導が必要である。
- ・広島県高等学校学力調査において学校平均通過率が1年次から2年次にかけて維持・向上した教科数は2教科であった。基礎基本を身に付けさせる指導を継続的に行う。
- ・家庭学習時間は、目標をほぼ達成できた。中には学習時間を正確に記載していない生徒もあり、個別の指導が必要である。
- ・授業評価アンケート「授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面がある。」の肯定的評価の割合は、目標値を達成することができたが、科目によって取組に差がある。
- ・互見授業週間では、全教員が学習指導案を作成し相互に授業研究を行った。

【今後の改善方策】

- ・授業において、話し合いなどの活動や問題を解決する場面を意識的に増やす。
- ・活用問題は年度当初より定期考査において継続的に出題している。出題した問題が「身に付けたことを用いて考える力」を養う問題になっているか研修会等で検討する。
- ・生徒に自己評価のためのルーブリックを提示して授業に臨ませるなど新しい取り組みを入れていく。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
3 きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。							
①組織的な進路指導体制により、生徒の進路第一希望が実現している。	進路第一希望合格率	83%	90%以上	95%	B	卒業生 19 名のうち 18 名が第一希望に合格・内定した。	進路指導部
	国公立大学希望者の合格率	0%	60%以上	100%	A	希望者1名がAO入試で合格した。	進路指導部
	公営塾との連携回数	25 回	30 回	27 回	A	公営塾ミーティング以外にも教員とスタッフで教科ごとに適宜、情報共有を行った。	進路指導部 担当者

【評価結果の分析】

- ・卒業生 19 名の内、1名が進路第一希望を実現できなかった。
- ・AO推薦入試講座受講者2名のうち、1名が国公立大学にAO入試で合格した。もう1名も第一志望の私立大学にAO入試で合格した。
- ・毎週木曜6限目に、魅力化推進コーディネーター、公営塾スタッフと本校の管理職、教科担当者等で連携を行った。

【今後の改善方策】

- ・就職希望者は早期に進路希望を確定させ、実現に向けた準備をさせることが必要である。
- ・大学進学希望者はAO入試や推薦入試だけでなく、センター試験や個別学力試験で成果をあげられるように指導する必要がある。
- ・公営塾との会議を時間割に組み込んだため、今年度は昨年度の連携回数を上回ったが、教科ごとの指導方法や生徒の様子などの情報連携を各教科や担任が密に行う必要がある。

学校経営目標							
達成目標	評価指標	前年度	本年度		評価	理由	担当部等
		実績値	目標値	実績値			
4 生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。							
①生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、自己指導能力を高めている。	生徒アンケート「私は、授業におけるベルスタートにきちんと対応している。」の肯定的評価の割合	95%	96%	96%	A	目標値を達成し、前年度並みの実績値であったため。	生徒指導部
	1日当たりの遅刻者数を2.0人以下にする。	1.6人	1.5人	2.4人	C	目標値を下まわったため。	生徒指導部
②生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、豊かな心を育てている。	保護者アンケート「高校生はよく挨拶をする。」の肯定的評価の割合	63%	70%	74%	A	目標値を達成し、4ポイント上回ったため。	生徒指導部
	保護者アンケート「高校生は制服をきちんと着用している。」の肯定的評価の割合	67%	90%	83%	B	目標値に届かなかったものの前年度実績値を大きく超えたため。	生徒指導部

【評価結果の分析】

- ・生徒指導全体で見ると一定の評価を得ているところもあるが、授業規律や生徒指導規程が一部の生徒で守られておらず、数値を下げる一因となっている。
- ・遅刻者数は各学年で増加している。特定の生徒ではあるが常態化しており、粘り強い指導が必要である。

【今後の改善方策】

- ・年度当初に生徒指導規程を確認する時間を設けるとともに、保護者に対しては入学者説明会やPTA総会で説明する。
- ・マナーカード(違反指導票)を導入するなど、違反を見逃すことなく、双方に一定の緊張感や危機感を持つようにする。
- ・遅刻者の減少に向けて、保護者と早めの連絡を取る。特に常習的に遅刻をする者は、個別の指導を強化する。

平成29年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原 健次	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1) 成果

○学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

・6月下旬から7月上旬にかけて、高校教員による中3生への進路相談を実施した。中学校と高校との違い、今学んでいる中学校の学習の大切さ、高校卒業後の進路等をアドバイスした。生徒アンケート「進路相談はあなたにとって有意義でしたか？」の項目では全員が肯定的回答であった。

・高校の文化祭では、中学生に来校を促すイベントを実施し60名以上の参加があった。中学校の文化祭では本校和太鼓部が参加した。迫力ある演奏を披露し、中学生や来校された地域の方々に本校の良さをアピールすることができた。

②地域学習「大崎上島学」の実施

・大崎上島学を開始して、2年目となった。生徒アンケートでは中間評価よりも肯定的評価の割合は増加している。また「まったくあてはまらない」と回答した生徒の割合は数%であり、大崎上島への誇りを醸成できていると考える。

・11月21日(火)・22日(水)の2日間、1年生は福祉体験学習を実施した。島内の福祉施設で実習を行うことで、大崎上島町の福祉の現状を理解し、将来自分に何ができるかを考えさせた。また、2年生は職業人として必要な資質や高校生として取り組むべきことを学ぶため、職業人インタビューを実施した。

・今年度新しく内容づくりに取り組んだ2年生の「大崎上島学Ⅱ」では、漁業、教育、農業、造船、福祉の現場を訪問し、大崎上島における課題を発見し、その解決方法を考察する学習活動を実施した。

・3学年リサーチⅢの「大崎上島学」を選択したグループは、島の農家に協力して、廃棄される農作物を活用した「みかんスムージー」の商品開発を行った。11月12日(日)に沖浦港前広場で行われたオキウラマルシェでは「みかんスムージー」を販売し好評を博した。

・本校の生徒と近隣の高等専門学校の学生と共同で、地元の「学び」という観点で仕事や従事者を紹介する「島の仕事図鑑第5弾—学びの島編—」を作成した。冊子は3月に完成予定である。また「大崎上島町における学びについて」というテーマで意見発表を行う大崎上島未来会議「学びの島編」を2月に開催した。

・キャリア教育の充実発展に尽力し、顕著な功績が認められた団体等を表彰する「第11回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞した。本校が学校魅力化プロジェクトの一環として行っている地域を教材とした課題発見・解決型のキャリア教育が、今後日本で加速することが予想される少子高齢化という課題の解決に当たり優れたモデルとなるとして評価された。

③情報発信

・本校HPの更新回数は、昨年度よりも減少した。・学校情報誌(海星だより)は計画通り発行することができた。

・島内の中学校に対して、5月に開催された進路説明会では、生徒全員及びその保護者に学校案内を配付した。8月には保護者を対象とした学校説明会を実施した。10月には進路説明会で本校のプレゼンテーションを行った。

・周辺5中学校及び県外2中学校を訪問し、中学3年生及び教職員に学校案内を配付した。また、民泊型修学旅行で大崎上島に来島する大阪府の9中学校を修学旅行前に訪問し、3年生及び教職員に本校の学校案内を配付した。

・近隣の高等専門学校と連携し、関東地方及び西日本の中学校や教育委員会などに学校案内を配付した。

・東京で計8回大阪で計2回の説明会を実施した。回数を重ねるごとに本校への興味を持つ保護者からの問い合わせが増加し、入学者選抜への出願につながった。

・8月10日、11日には「大崎海星高校見学ツアー」を開催し、5組10名の参加があった。アンケートから「生徒による学校案内がよかった」という意見を全員からいただいた。

・4月より生徒が主体的に学校魅力化を進めるチームとして「みりょくゆうびん局」を創設した。今年度は、東京で生徒募集のための学校説明、学校見学ツアーの運営、広島大学でにおける講義・演習の実施などの活動を行った。

○特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・授業評価アンケート「授業では、「本時の目標」が板書されている。」及び「振り返り」の時間がある。」の肯定的評価の割合については、授業者がきちんと取り組んでいることによる結果である。

・授業評価アンケート「授業を受けて、やればできるという意欲が高まった。」の肯定的評価の割合については、目標値を3ポイント上回ったが、前年度と同値である。見通しを持たせる指導を行い、自己肯定感を高める指導が必要である。

・広島県高等学校学力調査において学校平均通過率が1年次から2年次にかけて維持・向上した教科数は2教科であった。

- ・家庭学習時間は、目標をほぼ達成できた。中には学習時間を正確に記載していない生徒もあり、個別の指導が必要である。
- ・授業評価アンケート「授業では、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面がある。」の肯定的評価の割合は、目標値を達成することができたが、科目によって取組に差がある。
- ・互見授業週間では、全教員が学習指導案を作成し相互に授業研究を行った。

○きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・卒業生 19 名の内、1 名が進路第一希望を実現できなかった。
- ・AO推薦入試講座受講者2名のうち、1名が国公立大学にAO入試で合格した。もう1名も第一志望の私立大学にAO入試で合格した。
- ・毎週木曜6限目に、魅力化推進コーディネーター、公営塾スタッフと本校の管理職、教科担当者等で連携を行った。

○生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・生徒指導全体で見ると一定の評価を得ているところもあるが、授業規律や生徒指導規程が一部の生徒で守られておらず、数値を下げる一因となっている。
- ・遅刻者数は各学年で増加している。特定の生徒ではあるが常態化している。

(2) 課題

○学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

- ・高校教員による中3生への進路相談は、中学校の3年生担任と連携とりにやすいように調整する。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・「大崎上島学」は着実に内容づくりが進んでおり、次年度も計画的に実施する。

③情報発信

- ・本校HPは、行事担当者に作成を依頼しつつ、本校の取組をより一層発信する必要がある。
- ・島内の中学校に実施している進路説明会、保護者対象の説明会等継続的に実施する。
- ・「みりよくゆうびん局」が活躍できる機会を増加させる。

○特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

- ・基礎基本を身に付けさせる指導を継続的に行う。
- ・授業において、話し合いなどの活動を通して、考えたり、問題を解決したりする場面を増加させる。
- ・家庭学習時間を増加させるには、課題を与えるだけでなく個別指導が必要である。

○きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

- ・早期に進路希望を確定させ、実現に向けた準備をさせることが必要である。

○生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

- ・教職員で共通理解を図り、学校全体で指導にあたる必要がある。
- ・服装面や遅刻など、指導の対象となるの生徒に対して粘り強い指導が必要である。

2 今後の改善方策

○学校の魅力化を推進し、地域の期待に応える教育活動を展開するとともに、学校の情報を積極的に発信する。

①中高連携の推進

- ・高校教員による中3生への進路相談は、来年度も継続する。また3年生担任と面談結果の共有ができるように調整する。
- ・高等学校が開催する文化祭・体育祭等へ、より多くの中学生が気軽に参加できるようにイベントを工夫する。

②地域学習「大崎上島学」の実施

- ・来年度は地域活動を授業に取り入れる。多くの行事を通して、生徒が様々な役割を担うことにより、大崎上島に誇りが持てるよう指導する。

③情報発信

- ・今年度HP作成用のフォーマットを作成したが、機能していない。HP作成担当者がよりきめ細やかに教職員に依頼することが必要である。
- ・本校「みりよくゆうびん局」の生徒にHPの原稿を考えさせることも検討している。

・東京都等県外での説明会を来年度についても今年度と同様に実施する。

○特別支援教育の視点に立った組織的な授業づくりを推進し、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、知識を活用し協働して新たな価値を生み出そうとする意欲を持つ生徒を育成する。

・授業において、話し合いなどの活動や問題を解決する場面を意識的に増やす。

・活用問題は年度当初より定期考査において継続的に出題している。出題した問題が「身に付けたことを用いて考える力」を養う問題になっているか研修会等で検討する。

・生徒に自己評価のためのルーブリックを提示して授業に臨ませるなど新しい取り組みを入れていく。

○きめ細かな指導により、生徒の進路第一希望を実現させる。

・就職希望者は早期に進路希望を確定させ、実現に向けた準備をさせることが必要である。

・大学進学希望者はAO入試や推薦入試だけでなく、センター試験や個別学力試験で成果をあげられるように指導する必要がある。

・公営塾との会議を時間割に組み込んだため、今年度は昨年度の連携回数を上回ったが、教科ごとの指導方法や生徒の様子などの情報連携を各教科や担任が密に行う必要がある。

○生徒指導を充実させ自己指導能力を育成するとともに、道徳教育、特に人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、豊かな心を育む。

・年度当初に生徒指導規程を確認する時間を設けるとともに、保護者に対しては入学者説明会やPTA総会で説明する。

・マナーカード(違反指導票)を導入するなど、違反を見逃すことなく、双方に一定の緊張感や危機感を持つようにする。

・遅刻者の減少に向けて、保護者と早期に連絡を取る。特に常習的に遅刻をする者は、個別の指導を強化する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

・大崎上島の伝統・文化・産業・自然を教材とした課題発見・解決型キャリア教育である「大崎上島学」の教育内容を完成させる。

・公営塾と連携し、国立大学や難関私立大学への希望者に対して成果をあげられるように個別指導を行う。

・生徒が学校の魅力を全国へ届けるみりょくゆうびん局を今年度より立ち上げたが、説明会や講演会等でのプレゼンテーション、ホームページの作成など生徒が活躍する場を増やす。

平成29年度学校関係者評価シート(年度末評価)

平成 30年3月14日

校番	121	学校名	広島県立大崎海星高等学校	校長氏名	中原健次	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	--------------	------	------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッション, ビジョンを明確にし, 計画的に学校運営を行おうとしている。 ・目標・指標・計画は適切に設定されている。
目標の達成状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に評価し, 成果も課題も明確にしている。 ・評価の目標値, 実績値には改善が必要な項目もあるが, 目標達成に向けて振り返り評価している。 ・概ねできているが, 努力して改善すべき課題もある。
目標達成に向けた取組の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な取組が仕組めている。 ・中高連携, 地域学習, 情報発信等目標達成に向けて特色ある取組を行っている。 ・取組が十分でない部分もある。より細かな取組をしてほしい。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に分析し, 次の課題へとつながっている。 ・学校の魅力化を推進し, 学校の活性化を図るために, 様々な取組を行い, 分析し・改善を行おうとしている。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての改善方策が適切である。 ・生徒の学力向上, 規範意識の向上等, 大崎海星高校の存続に向けた取組になっている。 ・生徒に対してもう少し厳しい対応も必要である。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと努力をしている。今後にも期待する。 ・学校の魅力化を推進し, 学校経営を適切に軌道に乗せる取組を行っている。 ・生徒数の増加という結果は出ている。今後は取組の内容を充実させてほしい。